



大宮小だより

R3年 12月 22日 No.12

発行 阪井宏行

～自ら学び、心豊かで、しなやかに生きる子どもの育成～

二学期を振り返って ～子ども達は大きく成長しました！～

緊急事態宣言のなか始まった二学期でしたが、無事冬休みを迎えることができそうです。二学期の二大行事である運動会と文化祭は、その取組を通して子ども達が大きく成長する場になりました。12/7,8の修学旅行でも、その活動の中で6年生がまた一つ成長していく姿がみられました。

子ども達は一つ一つの活動を通じてどんどん成長していきます。先生達は『この活動を通して子ども達にこんな力をつけたい。』そんなねらいを持って、日々の授業はもとより、様々な教育活動を実践しています。この二学期はその成果が大きく実った学期であったと思います。

12/7,8の修学旅行を振り返ります。

修学旅行行程 ◆勝浦温泉一泊

【1日目】 学校→①橋杭岩→②串本海中公園→③南紀熊野〆杵°-センター→④那智大社、那智の滝

【2日目】 ①太地町立くじら博物館→②鬼ヶ城→③花火師講習と花火玉皮貯金箱づくり→学校



子ども達にとって修学旅行は最大の楽しみに違いありませんが、ただの思い出作りの場ではありません。たったの二日間ですが、その中身は数か月に匹敵するくらいの濃密な活動の場となります。学校の中だけではできない様々な活動や人との出会いを通じて子ども達はいっしょに成長します。それは人としての優しさであったり、強さであったり、つまり心の成長。もう一つは知識であったり、技能であったり、社会的な生活経験の習得です。

二日間の修学旅行で、子ども達はたくさんの人と出会いました。七保小学校の6年生や先生、旅行会社の荒木さん、バスの運転手さん、ホテルの方々、見学施設の方々、その出会いは単にすれ違うだけの出会いではなく、意図をもって活動の対象に組み込まれます。ホテルでの布団の上げ下げ、部屋の整理、お風呂の入り方、食事のとり方、そんなことも一つ一つが貴重な経験となって身につけていきます。同年齢の多くの友だちと集団で二日間を過ごすことにも大きな意義があります。友だちと一緒に目標を立てたり、計画を立てたり、係を決めたりすることは、将来仕事に就いたときの活動に類似する体験です。このような計画に裏打ちされた活動が修学旅行です。

余談になりますが、自分自身長い間教育に携わる仕事に就いていますが、教育の重要性を強く実感したのは、自分の子どもが保育園に入ったときです。当然、親として子どもにいろいろなしつけや教育をしてきたのですが、保育園に通うようになり明らかに子どもが変わりました。ご飯の食べ方から、嫌なことを我慢するようになることまで。「家だけでは無理なことを周りの人たちがやってくれている。」そう感じました。そこから、「子どもはいろいろな人との関わりの中で育てられている。」と思うようになりました。さらに言うと、「自分の子どもを上手く育てるためには、周りの人を育てることが重要である。なぜなら大きくなればなるほど自分の家族以外の人と接する時間が長くなっていく。ならば、機会あるごとに子どもに関わる学校の友達や先生、つまり周りを育てる声掛けやアプローチを積極的にすべきである。」そう思うようになりました。

明日から冬休みに入ります。普段できない活動や出会いが子ども達の成長に繋がるように、是非『ご家庭でも何か一つねらいを持って取り組んでもらいたいなあ。』と思います。

冬休みの生活 ～家族で次の事を考えてみよう！～

1 自分の身は自分で守ることができる力を育てる。

交通安全をはじめ、様々な危険から自分の身を守る力を付けることが大切です。常時、親や大人が付き切りという事はなかなかできません。普段から『自分の身を自分で守る力』をつけるべく、いろいろな危険やその対処のしかたについて、話をしたり、考えさせたりしてください。

2 スマホやゲーム機器などの付き合い方を考える。

スマホ依存症の中学1年生が、どのように依存症から抜けだしたか、というドキュメンタリー番組を見ました。彼女は一日5時間も10時間もスマホを使い、その世界から離れられなくなった状態でした。使用時間の大半は友だちとのLINEや動画視聴やゲームです。SNSでの過度なやり取りは、時間はもとより友だち関係にも影響する危険性をはらみます。また、動画視聴やゲームには子どもの心に影響する過激な内容が多く存在します。彼女の場合は、健康面も親との関係も悪化の一途をたどる状態でした。どうしようもなくなった親は、子どもと相談の上、「スマホ断ちの合宿」に参加させます。親から離れた合宿では、同じ依存症の子どもと大学生のボランティア、そして中心になる大学の先生で、いろいろな体験活動をしたり、話し合い活動をしたりします。その中で彼女自身が自分の心と向きあっていくという内容でした。彼女は「これまでのスマホの世界だけでなく、実際の体験や人との触れ合いの大切さに気付いた。」と言います。家に帰ってからも自分の意志で時間がきたら親にスマホを預ける様子が映し出されました。単に規制するだけではなく、いろいろな世界を経験させ、自分で考えるきっかけや力をつけることが必要だというメッセージが伝わる内容でした。

◆学校閉校日 12/28～1/5 → 緊急連絡は、教委〈72-4040〉 役場本庁〈86-2212〉